

八幡昌樹の社会科（第3学年）研究計画

1 本研究で目指す子ども

社会科は、人々、自然環境、社会の仕組みなどの相互関係を調べて、社会的事象（以下：事象）の特色や意味を考える教科である。

また、論点整理においては、「世界の国々との関わりを考える学習を充実させる」という学習内容の改善が求められており、近年のグローバル化によって社会情勢が大きく変化していることを踏まえた検討が進められている。

グローバル化した社会では、地域、日本、世界の国々と異なる空間レベルで事象が関係し合っている。情報化が進んだことによって世界の国々について知りたい情報を瞬時に手に入れることもできる。世界の国々は遠く離れたものではない。身近な地域においても外国とのかかわり、それを意識した地域社会の取組も増えている。ただ、小学校社会科においては、子どもの空間認識に合わせて、学習の対象を地域、日本、世界の国々と同心円状に拡大させているため、中学年では、主に人と物の移動について、他地域とのつながりの中で外国を取り上げてきた。それでは限定的な場面でしか外国とのかかわりを考えることができなかつた。そこで、外国とのかかわりがある身近な地域社会の取組について学習問題を設定し、外国人の生活と関連付けて考えることで課題を解決していく学習を進める。こうすることによって、子どもは身近にある外国とのかかわりに気付くことができる。

上述のことから、私は、**事象について調査し、外国とのかかわりを視点に地域社会の取組の意味を考える子ども**の育成を目指す。目指す姿に迫るために、外国とのかかわりをどの学習内容においても取り上げる単元構成を提案する。

また、課題解決の過程において、次の点の指導の改善を図る。これまでの実践を振り返ると、子どもの問題意識から学習問題を設定しても、子ども自身が適切な解決の方法を見いだせない姿が見られた。それは、発達段階に応じた観察、調査をさせたり、資料提示をしたりせず、授業者が読み取らせたい資料のみを提示していたことに原因がある。そこで、国語のインタビューや算数のグラフの読み取りなど他教科の学習との関連を図り、社会科の課題解決の過程において、それまでに育んだ様々な資質・能力を発揮させるようにする。そうすることによって、子ども自身が課題に応じて解決に適切な方法を判断し、必要な情報を収集できるようにする。

このようにして、目指す子どもの姿を具現していく。

2 本研究で育む資質・能力

①知識や技能	②ツール活用能力	③見方や考え方	④態度
○事象の特色や相互の関連についての理解 ○事象について調べてまとめる技能	○調査して集めた情報を総合して考える ・ハウスチャート	○事象について、比較・関連付け、総合して考える ○人々の生活と関連付けて考える	○地域社会の一員としての自覚 ○地域社会に対する誇りと愛情

3 主張する働き掛け

子どもはこれまでに社会科の学習において、地域社会における事象の特色、その関連について、観察、調査を中心とした課題解決を図り、概念的な知識としてとらえている。

他教科の学習に関しては、課題解決の段階において観察、調査、資料の活用が必要になるのに合わせて、関連する他教科の資質・能力を育む学習をしている。そして、道徳の学習を通して、外国とのかかわりを意識するようになってきている。そして、本単元においてこれまでの観察、調査、資料の活用では考えていなかった地域社会に見られる事象を調べてきている。そして、その事象があることによって効果を感じている人がいることをとらえ、それは地域社会における取組があるからだと考えている（C0）。このような子どもに、次のように働き掛ける。

働き掛け1

これまでの見方では目的がはっきりしない資料を提示し、疑問に思うことを問う。

既有事項とずれを感じさせ、取組の目的について、子どもに問いをもたせる働き掛けである。

まず、これまでの学習を想起させる。既有事項から事象が〇〇の人のためにあると考えている。そこで、これまでの見方では目的がはっきりしない資料を提示する。子どもは、既有事項とのずれを感じる。そこで、提示した資料について疑問に思うことを問う。すると子どもは、資料から疑問に思うことを表出する。それを取組の目的に焦点化し、「何のために～あるのだろうか」という学習問題を設定する。

働き掛け2

学習問題に対する予想と解決するための方法を問い、調べたい内容を班で話し合わせる。

設定した学習問題を解決する見通しをもたせるための働き掛けである。

学習問題を設定した子どもに、この時点での予想を問う。このときの予想が課題を解決するための視点になるからである。子どもは、**これまでに観察、調査した経験を想起した予想をする(社会①③)**。この予想を立場で分類して板書する。こうすることで、子どもが観察、調査をして解決しようとするよう意識付ける。

次に学習問題を解決するための方法を問う。子どもはこれまでの学習から、分からないことがあったら観察したり、調査したりすることがよいと考えているため、ここでも自分たちの経験を基にして同じように観察、調査して解決したいと考える。

働き掛け3

学習問題の解決のために観察、調査、資料の活用をさせる。

学習問題の解決につながる情報を収集させるための働き掛けである。

学習の進め方に見通しをもった子どもに、学習問題の解決に必要な観察、調査、資料の活用をさせる。子どもは、学習問題に応じて、**教科横断的、総合的に様々な資質・能力(他教科①③)**を発揮して、解決につながる情報を収集する。なお、このときに発揮する資質・能力は、単元によって異なるものである。そして、**地域社会の取組についての事実気付く(社会①③)**。

働き掛け4

子どもが初めて出合う事象の資料を提示し、考えたことを問う。

取組の効果を考えさせるための働き掛けである。

取組の目的をとらえた子どもに、初めて出合う事象の資料を提示する。すると、事象のよさが自分たちにもあると、**自分の生活と関連付けて取組の効果に気付く(社会①③)**。そのときに考えたことを問う。子どもは取組の効果は自分たちにもあるという考えを表出する。

働き掛け5

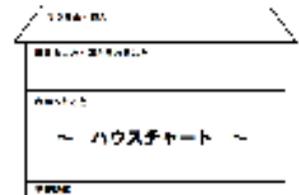
班ごとにハウスマップを提示し、事実と解釈、学習問題の結論、それに対する自分の考えを問う。

外国とのかかわりについて、自分の解を出させるための働き掛けである。

観察、調査を終えた子どもに、分かったことをどうまとめるかと問う。子どもは、これまでに課題解決してきた経験を想起して、**ハウスマップ(自作)にまとめれば結論を出せると考える(社会②)**。子どもの反応を受けて、ハウスマップを提示する。そして、分かった事実と解釈を問う。子どもは**マップに分かった事実を書いた付箋紙を貼り、それを基にして情報を関連付け、解釈する(社会②③)**。

最後に、一人一人に学習問題の結論、それに対する自分の考えを問う。

子どもは、事象について観察、調査したことで、「事象には〇〇のような意味がある」などと**集めた情報を総合して考える(社会③④)**。これが、**事象について調査し、外国とのかかわりを視点に地域社会の取組の意味を考える子ども(Cn)**の姿である。



4 検証

(1) 検証すること

- ① 構想した働き掛けにより、想定したCnになったか。
- ② 構想した働き掛けにより、想定した資質・能力を発揮することができたか。
- ③ 子どもは発揮した資質・能力を自覚することができたか。

(2) 検証の方法

- ① 働き掛け5において、学習問題の結論として、複数の立場をまとめて事象の意味を考えることができたかを、ノートへの記述から検証する。
- ② 働き掛け3において、学習問題を解決するために必要な情報を観察、調査して収集することができたかを、付箋紙への記述から検証する。
- ③ 振り返りの記述内容から検証する。

5 年間の授業計画

- (1) 指定研究授業(7月) 「IN MY CITY ～わたしたちの市の様子～」(10時間)
- (2) 中間検討会(9月) 「IN NIIGATA MATSURI ～受けつがれる行事～」(12時間)
- (3) 初等教育研究会(2月) 「AT SUPERMARKET ～店で働く仕事～」(13時間)

